



今回のテーマ

## コミュニケーションツールとしての 口腔機能

講師

口腔機能リハビリテーションセンター  
センター長 高橋 浩二



発健伝の創刊おめでとうございます。  
記念すべき創刊号からコラムを連載する  
というたいへん光栄な機会を与えて下  
さった佐藤 猛病院長はじめ関係者の皆様  
に心より感謝申し上げます。このコラム  
を通じ、センターの名称で用いている口  
腔機能についてご紹介したいと思います。

お口の機能として、まず思いつく  
のが咀嚼機能、哺乳・嚥下機能、言  
語機能、呼吸機能です。これらは言  
うまでもなく重要な機能で、このう  
ち哺乳・嚥下機能と呼吸機能につい  
ては生命維持の根幹となる機能で  
す。しかし口腔機能としてはこれら  
がすべてではありません。

出産を終えた母親は初めて見るわ  
が子を抱きしめて誰もが新生児に口  
づけをするでしょう。この口づけを  
はじめとし、口は非言語のコミュニ  
ケーションツールとしての機能を有  
します。世界中で  
流行したスマイル  
バッジは笑顔の  
“口元”が特徴で、  
スマイルの口元に  
魅了されることはモナリザの微笑を  
例に出すまでもなく古今東西の人間  
の普遍的な心理でしょう。



人を静かにさせる合図—すなわち  
「シ」という口の構えと人差し指—  
本を口の前に添えるポーズは海外の

ドラマなどでも見られ、異文化圏で  
も通用するコミュニケーションツ  
ールと言えます。口をへの字にする、  
「あかんべ」で舌を出す、舌打ちな  
どは日本では不快や怒りを表す合図  
として万人に共通します。一方、舌  
打ちもやり方を変えれば、乳児をあ  
やすためのツールとして用いられます。  
また口笛は合図だけでなく楽曲  
でも使われることがあります。この  
ように口腔はコミュニケーションツ  
ールとして重要な機能を営みます。

今回のコラムの最後に日本が誇る  
大谷翔平選手にあやかって皆様に  
メッセージを送ります。  
「スマイルしようぜ！！」



医療法人徳洲会 館山病院 広報誌

# 発健伝

Vol. 1  
2024.1

Take Free  
ご自由にお持ちください

### T+PICS

2月1日(木)  
介護老人保健施設 たてやま OPEN!

発健体操／お口の機能の四方山話

### Interview

館山病院 院長 佐藤 猛

## リゾート感あふれる 癒やしの空間で

## 患者さんに寄り添う医療を



### 館山病院の 理念

“生命だけは平等だ。  
「生命を安心して預けられる病院」  
「健康と生活を守る病院」

#### 基本方針

- ①24時間診療体制の維持向上に努めます
- ②適切な情報の提供、十分な説明と同意を心がけ、患者さまの意志と人権を尊重します
- ③患者さまの安全と安心を第一に考え、満足と信頼をいただけるような医療サービスをご提供します
- ④近隣の医療機関や施設と連携し、地域に密着した医療を行います
- ⑤医療知識、技術、接遇の向上に絶えず努力します



当院は、病院機能評価 (3rdG : Ver.2.0) の審査を受審し、審査区分「一般病院 1」について、認定証の交付を受けました。

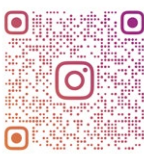


#### 交通案内

富津館山道「富浦IC」より車で約8分  
JR館山駅よりバス・タクシーで約10分

### HOT LINE

Instagram Best 5  
昨年の投稿から選りすぐりの  
5つをご紹介します！



TATEYAMA\_HP  
フォローしてね！

6月5日



2023年6月1日より、竹内信一が名誉院長に就任し、新院長に佐藤猛が就任しました。

7月22日



医療講座は月一で開催しています。老健の役割として訪問および通所リハビリテーションのお話と体操を行いました。

12月21日



院内保育のクリスマス保育の子供たちが病院職員にお菓子をプレゼント

12月21日



回復期リハビリ病棟でクリスマス会が開催されました！

12月27日



富士山と鳥居そしてヤシ。館山病院の絶妙な位置にある病室から撮れるショットです。

#### 編集後記

このたび、館山病院広報誌リニューアル第1号「発健伝」の創刊にあたり、ご尽力いただいた皆さんに感謝いたします。発健伝のロゴは、館山病院の新たな発見 (NEWS) や健康情報をお伝えするという意味が込められ、「南総里見八犬伝」にも掛けました。



編集・発行／館山病院広報委員会

デザイン・印刷／ワタナベメディアプロダクツ(株) 2024年1月15日発行



館山病院

〒294-0045 千葉県館山市北条 520-1

☎0470-22-1122 (代表)

ご意見や問い合わせ pr@tateyama-hp.com





## リゾート感あふれる 癒やしの空間で 患者さんに寄り添う医療を

### Interview

館山病院 院長 佐藤 猛  
Takeshi Satou

### 館山の自然をイメージした新病院 診療科を増やし地域医療のニーズに応える

2022年6月に移転開院した当院は、「海と山のリゾートホスピタル」をコンセプトとし、館山の豊かな自然を感じられる温かい雰囲気、患者さんに安心して療養いただける環境が整っています。

開院に合わせ、整形外科と心臓血管専門外来を診療科の新たな核に位置付けました。整形外科については千葉大学医学部附属病院から医師を派遣していただき、もともと安房地域で執刀医が少なかった手の手術を行っています。今年4月から股関節や人工関節の手術も行えるよう、スタッフ教育などの準備を進めています。

心臓血管専門外来については、千葉西総合病院・心臓病センターの専門医が診療に当たり、新規導入した血管撮影装置を用いてより精度の高い検査が行えるようになりました。当院には糖尿病による透析患者さんが多いのですが、狭心症や閉塞性動脈硬化症を発症するリスクが高く、これまでは他院を紹介していました。今回、専門医による診療が可能になったことで転院の必要がなくなり、特に高齢の患者さんにはメリットが大きいと思っています。

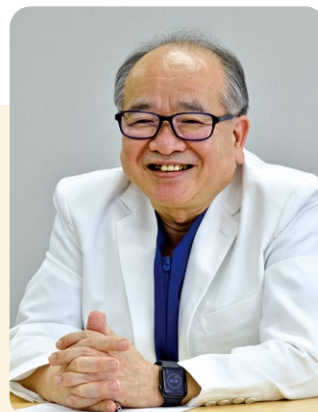
### 急性期から慢性期まで リハビリを中心により良い地域医療を目指す

これから高齢化が進むと、急性期から慢性期まで診ることのできる医療機関はますます重要になってきます。当院も、大学病院や徳洲会グループの他の病院の力をお借りし、職員の技術研修を行いながら急性期から慢性期の領域を拡充したいと考えています。

また、術後のリハビリテーションにも力を入れています。移転前の病院はリハビリ室がとても狭く、理学

### PROFILE

1986年東京医科大学卒業  
診療科：一般内科（臨床検査）、  
消化器内科  
取得資格：臨床検査専門医、  
臨床検査管理医、日本医師会  
産業医、在宅医療認定医、人  
間ドック健診専門医、医学博士  
趣味：麻雀、映画、サッカー（好  
きなクラブ：清水エスパルス）



療法士が非常に苦労していました。そこで、新病院をつくる際には彼らの意見を聞きながら改善を重ね、十分にリハビリができる広いスペースを確保しました。高齢の患者さんが退院後に帰るところがないとか、一人暮らしで退院できないといったことがないよう、訪問診療や訪問看護、通所リハビリテーションなどを積極的に行い、自宅での生活をサポートしながら「最後まで寄り添う医療」を目指していきたいと考えています。

2月に介護老人保健施設がオープンしますが、リハビリを行いながら老健をご利用いただき、その後の生活をより良くする準備をしていただければと思っています。

### 防災拠点としての役割も 24時間いつでも頼れる病院に

当院は「災害に強い病院」というコンセプトも掲げています。2011年の東日本大震災や令和元年房総半島台風では、館山も大きな被害を受けました。今後は津波のリスクもあり、災害にどう対応するかということも病院をつくる際の重要なポイントでした。そこで、約120人を収容できる多目的室を設置し、定期的に訓練を行い災害に備えています。

新しい病院ということで、看護・医療スタッフはそれぞれの専門分野を越えて幅広く知識を身に付けたり、コミュニケーションを密に取り合って情報を共有したりと、やる気に満ちています。治療から療養、看取りまで一貫して行うことができる「ケアミックス病院」として、地域医療に貢献できるよう職員一丸となって努力しています。

館山病院のモットーは「断らない医療」です。地域の皆さんには、24時間いつでも安心して当院を受診していただければと思います。

## 2月1日🌞OPEN!! | 介護老人保健施設 たてやま

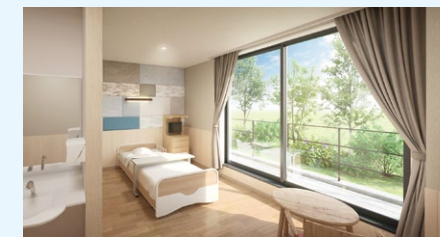
わが家のように温かく笑顔になれる場所



1月13日、介護老人保健施設たてやまの“竣工式”、徳洲会グループの創設者である徳田虎雄・医療法人徳洲会名誉理事長の銅像“除幕式”が執り行われました。“内覧会”には約660人の地域の方々に足をお運びいただきました。



神事やテープカットで施設の完成を祝いました



個室イメージ



老健2F食堂兼機能訓練室から見える夜景

### 施設概要

- 定員：居室100床／34室  
一般棟（60床／個室：4室 4人室：14室）  
認知症専門棟（40床／個室：8室 4人室：8室）
- 建物構造：鉄筋コンクリート造 ●敷地面積：16,166.15㎡ ●延べ床面積：3,275.08㎡
- スタッフ：医師、薬剤師、看護師、介護福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護支援専門員、ソーシャルワーカー、事務員

所在地：千葉県館山市北条 520-1 ☎0470-22-2700

## 発健

療法士直伝の  
スロートレーニング

## 体操

【第1回】

今回のテーマ

## お尻と太ももを鍛えて 楽に立ち上がりましょう！

ご高齢になるとしゃがむ動作や低い椅子から立ち上がることが難しくなっていきます。場合によっては転倒に繋がることもあります。そこで、立ち上がりの動作を安全かつ楽に行えるようにすることが今回の運動の目的です。

立ち上がりの動作ではお尻と太ももの筋力をよく使います。ゆっくりと負荷をかけることで、簡単にお尻と太ももの筋力アップが望めます。トレーニング時間を確保することができない人も、立った『ついで』、洗い物をした『ついで』にトレーニングを行いましょう。

療法科Facebookも  
ぜひご覧ください



### POINT

膝がつま先より前に出ないように。  
太ももが床と平行になるまで腰を  
落としましょう。

尻餅をついてしまうので  
無理は禁物。



STEP  
1

▶ 椅子の背もたれや手すりなど、  
掴める物が近くにある状態で  
直立します。  
両手を前に突き出す、または  
椅子や手すりをつかみます。

STEP  
2

◀ 『5秒かけて腰を落とし、  
5秒かけて元の姿勢に  
戻る』を1セットとして、  
10セット行います。回数は  
疲労に合わせて調整  
しましょう。無理はしない  
ように！